

BCP廃止に伴うCOVID-19基本対応（徳島大学病院）

（2023年5月11日現在）

基本的感染対策	外来	入院・診療体制
・標準予防策を遵守し、通常診療を行う。 ・入院患者、外来患者のマスク装着を徹底する。 ・職員等は、診療エリアでのマスク装着を徹底する。 ・患者がマスクを装着できない場面（口腔内診察や酸素投与など）はフェイスシールド/ゴーグル装着を徹底する。 ・疑い症例のエアゾル発生手技時はN95マスク装着を徹底する。 ・意識不明患者や呼吸不全症例の救急受け入れ時には必ずfull-PPEを装着する。（N95マスク/フェイスシールド/長袖エプロン/2重手袋/キャップ）	・各診療科外来COVID-19診療の手順に沿って対応を実施する。 ・流行状況にあわせて「トリアージ棟」の運用開始と閉鎖を検討する。	・流行状況に応じて、原則面会禁止・外出外泊禁止の運用開始と緩和・解除を検討する。 ・発熱等の有症状患者にはSARS-CoV-2検査を実施し、感染拡大を防止する。 ・ネブライザーや吸引（エアゾル発生手技）を行っている有症状患者は検査を実施し必ず陰性を確認する。陰性であっても症状が持続する場合は、周囲への感染リスクを下げるために週1回の抗原定量検査の実施を検討する。 ・ICマネージャーは、クラスター防止ラウンドのフィードバック内容を確実に周知すること。 ・COVID-19が否定できない場合は、患者を個室収容し、適切な感染対策を実施すること。
	※「トリアージ棟」は閉鎖。	※面会は一定の制限下で実施。外出外泊は病棟医長の判断。 ※エアゾル発生手技患者への週1回の抗原定量検査実施は必須ではない。
手術・検査	病院職員	実習学生
・全身麻酔における肺機能検査は麻酔科医師の判断により必要性に応じて実施する。 ・来院時体調チェック表に該当する者には、SARS-CoV-2検査を実施し、感染対策を万全にしたうえで、手術等を行う、または延期を検討する。 ・流行状況にあわせて入院患者全例に抗原定量検査を実施する運用の開始と解除を検討する。 ・全身麻酔時や検査・処置時のN95マスク装着は、来院時体調チェック表に該当する者、呼吸器感染症が否定できない場合に実施する。 ・全身麻酔時や検査・処置時にN95マスク装着を徹底する運用の開始、または解除を検討する。	・休憩/食事の際は、換気に努めるとともに、間隔を十分にとる。 ・病棟でのクラスター防止に常に配慮し、健康管理を徹底すること。	・患者との接触時間の制限を設けない。 ・手術室への立ち入り制限も設けない。 ・担当患者は原則、マスク装着が可能な患者のみとする。 ・各診療科の特性に応じて柔軟に対応する。
※入院患者全例のスクリーニング検査は求めているない。 ※全身麻酔時や検査・処置時において、常時N95マスク装着は求めているない。		